

ななむら

第71号
発行：照来地区公民館
責任者：館長
☎ 92-1738

令和3年5月1日現在
世帯数 528世帯
人口 1,456人
(男677人、女779人)

『照来盆地』の棚田が黄緑色に！

～田の事すれば畑が荒れる～

♪夏も近づく八十八夜 野にも山にも若葉が茂る あれに見えるは茶摘みじゃないか 茜襷に菅の笠♪
皆さんも歌ったことがあると思います。そうです文部省唱歌「茶摘み」です。今の子ども達は歌ってないかもしれませんが、田植え時期になると何故かこの歌を思い出します。

八十八夜とは、立春から数えて88日目のことですが、今年は5月1日でした。季節の移り変わりの目安となる雑節の一つで、この頃から霜が降りなくなるので、稲の種まきや茶摘みの目安とされています。(照来では、田植えの季節となっていますが。)農作業が忙しくなる時期と言えます。

照来地区でも、この時期は田植えと野菜の種まきや植え付けで大変忙しくなります。「田の事すれば畑が荒れる」と言われますが、これは、田んぼの仕事をしていれば、畑のほうがおろそかになって荒れてしまう。一方にかかりきりになれば、他方がないがしろになり、両方が一度にできないたえですが、正に



この時期です。人手があればいいのですが、我が家では人手はなく、毎年、いい米、野菜ができないのはこのせいなのでしょう！

先日、配付物があり照来を一周しましたが、照来盆地の棚田がイエローグリーン（黄緑）に染まっていて、やはりいつの季節も照来盆地は美しいなと感じたところです。

鳥取の写真家の方が、照来盆地の棚田の写真（左の写真ではありません）を見てこう言っていました。「この写真を都会の人が見たら人が押し寄せて来ますよ。すばらしい景色だ！」と。私たちには見慣れた風景で、あまり良さを感じたことがなかったのですが、今は自慢できる風景だと思っています。

『照来地区まちづくり協議会総会』開催！

5月18日（火）「照来地区まちづくり協議会」の総会が、照来地区公民館において開催されました。

新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が発令されていることから、地区公民館が午後8時までの使用となっており、短時間でしたが事業計画の承認や役員の方の改選を行い終了しました。

主な事業としては、「照来地区敬老会」の開催ですが、昨年、新型コロナウイルス感染症拡大により開催できませんでしたので、今年は何とか開催できればいいなと思っています。内容については、実行委員会の方で検討されるということです。

また、まちづくり協議会の下部組織となっている「スポーツクラブ21照来」の総会も同日開催され、年間事業計画が承認されています。

事業計画は、右のとおりです。

令和3年度事業計画

- ☆ 8月22日（日） ソフトバレー大会
- ☆ 9月20日（月） 照来地区敬老会
- ☆ 9月頃 照来ナイター野球大会
- ☆ 10月10日（日） 照来ふれあい
フェスティバル
- ☆ 2月11日（金） 照来地区卓球大会

※新型コロナウイルス感染症の影響により
変更することがあります。

アナグマが家の近くに出没！

5月11日午前11時頃、家から下の田んぼを覗くと、畦を歩いている動物を発見しました。最初タヌキかなと思ったのですが、田んぼに下りて確認してみるとアナグマではありませんか。写真を撮ろうとゆっくりと2～3mまで近づいたその時、目と目が合ってしまう、逃げられると思ったのですが、逃げることもなくこのようにいい写真が撮れました。

このアナグマ、夜行性で昼間は巣穴にいることが多いと聞いていたのですが、何故出て来たのでしょうか・・・。

アナグマは、その名のとおり穴を掘るのが得意で、水はけのよい斜面などに巣穴を掘って暮らしています。雑食性で土を掘ってミミズや昆虫類など食べる他、甘味のある果実を好むようで、年々農作物の被害が増えています。昨年、



我が家のトマトも被害に遭いました。多分この子です（笑）。

特徴としては、胴長で小さな頭、短い尾、顔には頭部から目の下にかけて黒い模様があり、鼻筋が白く、外見はハクビシンに似ています。ハクビシンは尾が長くアナグマは尾が短いので、そこで見わけてください。

6月の事業予定

- ◆6月2日（水）19時30分
事業：照来地区公民館推進委員会
場所：「照来地区公民館」
- ◆6月15日（火）19時30分～
事業：メディカルヨガ教室
場所：「照来地区公民館」
- ◆6月（未定）19時30分～
事業：野菜づくり講座
場所：「照来地区公民館」

※中止や延期する場合があります。

「同じ穴の貉（ムジナ）」

「同じ穴の貉（ムジナ）」ということわざを聞いたことがあると思います。これは、一見関係がないようでも実は同類、仲間であることのたとえで、多くは悪事を働く者という意味で使われています。

このムジナはタヌキとアナグマのことを言いますが、アナグマの掘った穴にタヌキが住むことがあり、見た目も似ていることからこのようなことわざができたようです。

照来の歴史(25)～文化財シリーズ～『丹土はねそ踊り』

照来で唯一、兵庫県指定文化財に指定されているのが『丹土はねそ踊り』です。昭和47年3月24日に民俗文化財として指定されました。

丹土地域に伝承された「はねそ踊」は、戦国時代に田舎の豪氏が我が家、我が身を護るため家子郎党（武士団の構成員のこと）に剣術を教えて我が身の安全を計ったといわれています。

その後、桃山時代に歌舞伎の曲が流行し頭（ず）を切り六方を踏む様になり、その音曲を剣術に取り入れ、父の亡き後に仏前に向い剣術を踊って供養をし、亡き父の霊を慰めたのが始まりとされています。

毎年盆には行事の一つとして踊られ、古くは村祭や田植休み等にも村人総出で踊りに加わったといわれます。

踊り手は二人、時としては三人が一組となり、刀・懐剣・脇差・なぎなた等を手にし、太鼓と囃しに合わせて所作事を演ずるもので、踊り手の多い時は幾組もが円陣を作って演じます。

所作事の芸題には「毛谷村六助」、「鈴木主水」、「白井権八」、「宮城野、信夫」、「国定忠次」など数多く伝わっていますが、古くはさらに「鬼神のお松」、「笠松峠仇討」、「夏目千太郎」その他幾十種かがあったといわれています。

その型の由来するところは歌舞伎であり、顔の向け方、足の踏み方にも直線的なきめてがあります。

また、敏捷な動作やしなやかな身ごなしには気迫と共に節度が認められます。

その女役はかつては男子の女形によって演ぜられましたが、現在では女性が進んで自ら女役をこなすようになりました。

この地区の盆踊りには他にも多くの歌曲と踊り手とがあったようですが、上述のような口説風の調子と所作事だけが「はねそ踊」の名で今日に伝わったものと考えられ珍重されています。

※二人の時は「立ち」と「受け」、三人の時は「受け」が二人となります。

